

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名	四国横断自動車道 阿南四万十線 阿南～徳島 東	事業区分	高速自動車国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	自：徳島県阿南市下大野町 至：徳島県徳島市北沖洲	延長	17.7km		
事業概要 四国横断自動車道は、阿南市を起点に、徳島市、高松市を経て四国中央市において四国縦貫自動車道と交差し、高知市、四万十市を経て大洲市に至る延長約440kmの高規格幹線道路である。この路線は、四国の東南地域、西南地域のミッシングリンク（高速ネットワーク空白地帯）を解消し「四国8の字ネットワーク」を形成することで、四国における信頼性の高い道路ネットワークの確保や地域の閉塞感の解消など、広域交流と地域の「安心」と「活力」を支える重要な路線である。 阿南～徳島東間は、新直轄方式により整備される区間であり、徳島東南地域のミッシングリンク解消のために計画されている地域高規格道路「阿南安芸自動車道」と相まって、徳島東南地域の発展に重要な役割を果たすことが期待されている。					
阿南～小松島：H15年度事業化		阿南～小松島：H8年度都市計画決定		阿南～小松島：H19年度用地着手	
小松島～徳島東：H10年度事業化		小松島～徳島東：H6年度都市計画決定		小松島～徳島東：H20年度用地着手	
小松島～徳島東：未着手					
全体事業費	約1,404億円	事業進捗率	20%	供用済延長	0km
計画交通量	18,500～19,900台／日				
費用対効果分析結果	B／C (事業全体) 1.5 (残事業) 1.8	総費用 (残事業)／(事業全体) 872/1,063億円 (事業費：848/1,039億円 維持管理費：24/24億円)	総便益 (残事業)／(事業全体) 1,601/1,601億円 (走行時間短縮便益：1,362/1,362億円 走行経費減少便益：173/173億円 交通事故減少便益：66/66億円)	基準年 平成23年	
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.3～1.7 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.4～1.6 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.4～1.6 (事業期間±10%)					
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・並行区間等の年間時間損失の削減が見込まれる ・並行区間等の旅行速度の向上が見込まれる ・並行区間等のバス路線の利便性向上が期待される ・徳島阿波おどり空港へのアクセス向上が見込まれる ②物流効率化の支援 ・徳島市から徳島小松島港へのアクセス向上が見込まれる ・県南部における農林水産品（阿波尾鶏、キュウリ、太刀魚、アワビ、伊勢エビ等）の流通の利便性向上が見込まれる ③国土・地域ネットワークの構築 ・地域拠点都市「徳島東部」～「なんごく・こうち」を連結する8の字ネットワークの一部を構成する ・日常活動圏中心都市間を最短時間で連結する路線を構成 ④個性ある地域の形成 ・辰巳工業団地、大湊新浜工業団地、わじき工業団地、徳島県南部運動公園の整備や展開を支援する ・徳島県LEDバレイ構想によるLED産業の集積を支援する ・観光資源が多くある県南部へのアクセス性の向上が期待される ⑤安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる ⑥安全な生活環境の確保 ・交通の転換による並行区間の交通安全性の向上が期待される ⑦災害への備え ・第1次緊急輸送確保路線に指定されている現国道11号、55号が通行止めになった場合の代替路線を形成する					

⑧地球環境の保全

- ・CO2排出量の削減が見込まれる

⑨生活環境の改善・保全

- ・NOX排出量の削減が見込まれる
- ・SPM排出量の削減が見込まれる
- ・通過交通の転換により、並行区間における環境基準超過地点の騒音の低減が期待される

⑩他のプロジェクトとの関係

- ・マリニピア沖洲整備計画と連携

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

- ・徳島県、徳島市、小松島市、阿南市、阿南市高規格道路等建設促進期成同盟会等より、本事業の整備促進について積極的な要望活動が続けられている。

徳島県知事の意見：

- ・「四国横断自動車道 阿南四万十線 阿南～徳島東」の事業を継続するという「対応方針（原案）」案については、異議ありません。
「四国横断自動車道 阿南四万十線 阿南～徳島東」は、「地域高規格道路・阿南安芸自動車道」とともに、「四国8の字ネットワーク」を形成し、「活力の道」として、経済・産業の発展、交流圏の拡大など県南地域の活性化に寄与するとともに、平時の救急救命、「南海トラフ巨大地震」などの災害発生時の緊急輸送道路となる「命の道」として、県民の安全・安心に重要な役割を果たす路線であります。
このため、引き続き、早期供用に向けた事業の着実な推進をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

- ・「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成23年3月 （主）徳島環状線 川内町大松～平松 延長1.3km 開通
- ・平成23年4月 桑野道路事業化
- ・平成23年7月 日和佐道路 延長3.1km 2車線 開通
- ・平成24年4月 阿南安芸自動車道 福井道路 延長9.6km 事業化
- ・平成24年12月 （主）徳島環状線 川内町平松～住吉 延長3.7km 開通

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成10年度に小松島～徳島東事業化、平成15年度に阿南～小松島事業化、用地進捗率65%、事業進捗率20%（平成26年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・阿南 IC（仮称）～小松島 IC（仮称）間は、トンネル、橋梁工事等に着手しており早期開通に向け工事推進中。
- ・小松島 IC（仮称）～徳島東 IC（仮称）間は、用地買収推進中。
- ・用地進捗率は約 65%（H26.3 末）であり、開通に向け事業認定申請準備中。

施設の構造や工法の変更等

- ・今後も新技術、新工法の採用による工事コストの縮減に加えて、施設の長寿命化や維持管理を考慮した構造の採用等、総コストの縮減に努めていく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。